

第266回 番組審議会

1. 日 時 平成29年10月10日（火）12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 8名
出席委員数 7名（欠席委員数 1名）

○ 出席委員（敬称略）

鈴木 厚人（委員長）

—以下50音順—

石田 征広

加藤 裕一

久慈 浩介

菅原 正二

八木橋 伸之

役重 真喜子

○ 会社側出席者（7名）

藤澤 利憲（代表取締役社長）

小原 忍（取締役副社長）

藤原 銀司（常務取締役）

前田 秀男（取締役技術局長）

工藤 浩（取締役東京支社長）

高嶋 昇（取締役営業編成局長）

一戸 俊行（報道制作局長）

○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『終わりのない悲しみ

～飲酒運転死傷事故から17年目の今～』

平成29年8月5日（土）15：00～15：30

5. 議事概要

今回は、8月5日土曜日午後3時から放送の『終わりのない悲しみ～飲酒運転死傷事故から17年目の今～』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

●岩手めんこいテレビ報道制作局長 一戸からの説明

・岩手に起こっていることや地域のためになるものを積極的に発信していこうということと日々のニュースだけではなく番組も作れる人材を育成したいという点から、今年度の報道制作局の目標にドキュメンタリー番組の制作を挙げている。今回番組を担当したのは、入社4年目で警察担当の和田裕貴記者。

・取り上げる題材について、震災の風化が言われていて、それを意識しているが、事件や事故のその後を伝える機会が少ないと感じていた。事件や事故の風化を防ぐことも報道の役割として必要ではないかと考えた。そこで出てきたのが、17年前に二戸市で起こった飲酒運転による児童が亡くなった事故だった。

【和田裕貴記者からのコメント】

・ご遺族は、悲しみがなくなることはないと常々おっしゃっていて、取材通じて自分が感じたことでもあった。そのことを一番に伝えたいと思い、タイトルにした。ご遺族の心情を理解することは難しかったが、自分のことに置き換えて話を聞かせて頂いた。見てくださった方にも、まずは命の大切さを感じてもらい、その延長で飲酒運転について考えてもらえれば幸いと思う。

●出席した委員からの意見

・番組を見て、当時の事故のことがよくわかった。

・市原刑務所の表現で「受刑者が生活している」と言っていたが、「生活している」という表現が引っ掛かった。

- ・この番組の一番のテーマは、飲酒運転撲滅だと感じた。
- ・冒頭のアナウンスのトーンが明るくて、内容と不釣り合い。楽しそうにしゃべっているように聞こえて気になった。
- ・家族が話している時にカメラがアップで寄りたがるが、見ていて辛いものがある。寄る癖を直した方がいいと思う。
- ・こういう番組を面白くするのは不可能に近い。インタビューしてアップでしゃべるだけだとチャンネルを替えられてしまうのではないかと心配した。
- ・被害者家族に焦点を当てたのは、それなりの意味があると思うが、何となく暗いのでどこかに救いがあると良かった。
- ・法刑期が重くなる動きが始まったのが平成13年頃からのので、亡くなった児童の母親・大崎礼子さんが講演活動をやった時期とオーバーラップする。具体的にどう関連があったかは分からないが、そういう作り、希望の見せ方もあったのではないかな。
- ・大崎礼子さんは、飲酒運転とかそういった事故で、人、子供を亡くさない世の中を作らなければならないと、悲しみを飛び越して使命感で動いている。そこをもうすこしクローズアップしてほしかった。
- ・取材される方との信頼関係をきっちり作っていたと感じた。番組に映っている部分だけじゃない水面下の部分で、その丁寧さということがあったのだろうか。
- ・番組が何を訴えたいのか、ドキュメンタリーとしては何の意味、何の目的を求めてこの番組を作るのか、その掘り下げの部分が最後まで探しあぐねた。
- ・地方が抱えている現状、その中でいろんな課題が起こってきていることを社会問題として学校関係者、子育て関係者以外の人もそれを考えて、問題提起というところに繋げていくと大きな意味も出てくるのではないかな。
- ・加害者側にも同じように悲惨な状況、不幸な状態があったはずなので、その辺を少しでも知ることができればと思った。

・飲酒運転致死傷罪など飲酒運転の厳罰化のその後どうなっているとか、緊急事案がどのくらいあるとか、不幸な事故によって、その後岩手県内でどうなっているのかデータなり何かがあれば、もう少し社会問題として提起することができたのかなと思った。

・番組を見て、どうしたら悲しみが終わりになるんだろうかと、そのことばかり考えていた。例えば免許の停止や全ての車にアルコール検知器を付けて、濃度が上がったならエンジンが止まるようなことができないかなど、また、アメリカのようにスクールバスを自治体が準備するようなことは出来ないのだろうか。そういうことも取り上げて番組にしてはどうかという気がした。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成29年10月12日(木) 産経新聞 東北版

※平成29年10月22日(日) 午前4時27分から4時30分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

※次回は、平成29年11月14日(火)12時より当会場にて開催予定です。